

中東・北アフリカ地域と日本

～ 新たなステージへ～

日本と中東・北アフリカ地域を結ぶ、歴史的友好関係

文化、技術、人道支援・・・日本と中東・北アフリカ地域は、人と人との交流を基にした成熟した友好関係を結んできました。

「そよかぜ」号の訪問飛行

1939年に、日本政府はイラン皇太子結婚のお祝いとして国産航空機「そよかぜ」号をイランに向けて訪問飛行させました。政府代表一行と祝いの品を乗せた「そよかぜ」号はアジア各地を経由してテヘランに着きました。イラン滞在中、一行は皇帝に拝謁し、「そよかぜ」号はイタリア機・トルコ機などと編隊飛行・分列式を行いました。同じ年には、イランの航空技術の発展を目的として、皇帝を名誉総裁とする「イラン航空倶楽部」が発足し、日本からも航空機の売り込みが行われました。



写真：外交史料館所蔵

杉原千畝

第二次世界大戦中、リトアニアのカナウス領事館に赴任していた日本の外交官、杉原千畝は、ナチス・ドイツの迫害によりポーランドなど欧州各地から逃れてきたユダヤ難民たちの窮状に同情し、1949年7月から8月にかけて、外務省からの訓令に反して、大量のビザ（通過査証）を発給し、およそ6000人にのぼる避難民を救いました。



エルトゥールル号遭難事件

1890年9月16日夜半、オスマン帝国の軍艦エルトゥールルが、現在の和歌山県串本町沖にある紀伊大島の榎野崎東方海上で遭難しました。紀伊大島の島民たちの必死の救助について、2015年12月に日本・トルコ合作映画『海難 1890』が公開されるなど、この歴史的な“友情と絆”の物語は今日広く知られ、日トルコ間の関係深化につながっています。



スフィンクスと侍

幕末期、交渉のためヨーロッパを訪問した外交奉行の池田筑後守長ら一行が、途中エジプトを経由し、その際ギザのピラミッドを訪れました。この時、スフィンクスの前で撮影された記念写真には、和服姿の日本人が24人ほど写っています。



写真提供：国立国会図書館

古代からの繋がり

日本と中東諸国は、古くからシルクロードを通じて結ばれていました。正倉院（奈良県）に収蔵されているガラス器「白瑠璃碗」は、往時のベルシャ帝国の繁栄をしのぶ品として有名です。また、2016年10月には、平城宮跡で出土した木簡にベルシャを意味する「破斯」という文字が確認され、改めて日本と中東の古代からのつながりの深さが思い起こされました。



写真提供：正倉院宝物



外務省のウェブサイトでは「中東諸国」について詳しい説明とデータが掲載されています。

外務省 HP > 国・地域 > 中東 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/middleeast.html>

外務省 〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1 TEL.03-3580-3311 編集：中東第一課 発行：国内広報室 2017.3



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan